

I. 神に対する私たちの奉仕は、ビジョンをもって、また啓示にしたがってでなければなりません:	A. 主がパウロに現れて、天からの光が彼を照らす前、神に対する彼の熱心な奉仕は、実は神に反対するものであり、サタンの扇動にしたがっているものでした:	1. 私たちは、パウロの過ちを繰り返すことがあり得ます。なぜなら、神に対する私たちの奉仕は、サタンの道具として用いられて、神の行動を破壊することがあり得るからです。
		2. パウロはダマスコへの路上で大いなる光に遭遇する前、彼には伝統があり、宗教の知識があり、熱心さがありましたが、ビジョンや啓示はありませんでした。
		3. パウロは主に二つの質問をしました。第一の「主よ、あなたはどなたですか？」は、主を知ることと関係があります。第二の「主よ、私は何をすべきでしょうか？」は、主のビジョンを受けることと関係があります。
		4. 使徒行伝第22章10節においてパウロは、ビジョンを持ち始めました。このビジョンは彼を以前の奉仕から断ち切り、新約の奉仕の中へと導きました。 使徒 22:8 そこで、私は答えました、『主よ、あなたはどなたですか？』。すると彼は私に言われました、『私は、あなたが迫害しているナザレ人イエスである』。10 そこで私は、『主よ、私は何をすべきでしょうか？』と言いました。すると、主は私に言われました、『立ち上がって、ダマスコへ行きなさい。そうすれば、あなたが行なうように定められているすべての事が、そこであなたに告げられる』。
		5. 神に仕えるパウロの道は、天のビジョンからやって来ました。彼がこのビジョンを見たとき、旧約の事柄は終わらされました。そして彼は新約の道を取り始めました。
	B. 神に対する私たちの奉仕は、啓示にしたがったものであるかもしれませんが、天然のものであるかもしれません:	1. 啓示にしたがった奉仕は、神に出会うこと、神によって照らされること、神から啓示を受けること、霊の中で神によって負担を与えられることを伴う奉仕です。
		2. 天然の奉仕は、私たち自身の考えや、見方や、伝統や、決まりにしたがったものです。それはまた、他の人たちの模倣することからやって来るものかもしれません。またそれはしばしば、ある状況の必要に応じるためにだけ開始されます。
		3. 私たちは、内側の啓示なしに主に対する外側の奉仕の行為だけを持つべきではありません。私たちの内側の啓示が、私たちの外側の行為を支配しなければなりません。
	C. ビジョンと啓示が、奉仕の道と命です:	1. 私たちは、奉仕の道のためにビジョンを必要とし、奉仕の命のために啓示を必要とします。神に仕える道は、ビジョンからやって来ます。神に仕える命は、啓示からやって来ます。
		2. パウロは、彼の外側の道だけでなく、彼の内なる命も変える必要がありました。彼の古い道は受け入れられないものであり、彼の古い命は終結させられなければなりませんでした。
3. パウロが宣べ伝えたその道は、天のビジョンからやって来ました。彼の宣べ伝えた内容は、啓示からやって来ました。彼の道は、天的なものでした。彼の内容は、生けるキリストご自身でした。		
II. キリストにある信者として、私たちはキリストのからだの肢体であり、からだの中で神に仕えます:	A. 私たちは、主に奉仕するという事柄にやって来るとき、私たちはからだを必要とするということをはっきりと見る必要があります。私たちが認識すべき極めて重要な事は、私たちはからだなしには奉仕することができず、からだの外では霊的生活を持つことができないということです。	
	B. クリスチャンの生活全体は、からだの中での生活です。クリスチャンの奉仕全体は、からだの中で遂行される奉仕です。	

II. キリストにある信者として、私たちはキリストのからだの肢体であり、からだの中で神に仕えます:	C. 新約では、ローマ第 12 章に至るまで、奉仕は明確に、また具体的には触れられていません。この章において、奉仕という事柄が啓示されます。そして、それはからだの事柄、からだの中の事柄として提示されます。ローマ 12:5 <u>私たちも数が多いのですが、キリストの中で一つからだであり、そして各自は互いに肢体なのです。</u> 6 また、 <u>私たちに与えられた恵みにしたがって、さまざまな賜物を持っているのですから、それが預言であれば、信仰の程度にしたがって預言し、7 奉仕あれば奉仕することに、…10 兄弟愛の中で互いに温かく愛し合い、率先して互いに敬意を表しなさい。</u> 11 <u>熱心で怠けることなく、霊の中で燃え、主に仕えなさい。</u>	
	D. 召会の中で奉仕することに関しては、その強調点は、奉仕のための立場にあります。しかし、からだの中で奉仕することに関しては、その強調点は、奉仕における組み合わせにあります。	
	E. 新約によれば、信者たちは、互いに肢体であり、一つからだの中で組み合わせられています:	1. キリストのからだを認識することは、私たちが一肢体にすぎず、他の人たちなしには何もできないということを認識することです。
		2. 一人のクリスチャンは、からだ全体ではなく、からだの一肢体、一部分にすぎません。 3. 私たちは主に奉仕するとき、一肢体の地位に立って、他の人たちとの組み合わせの中で奉仕すべきです。
F. もし私たちがからだを見たなら、もはや分裂を引き起こすことはできず、個人主義的や独立的にもならず、喜んでブレンディングされ、どのような不平や、つぶやきや、批判も持ちません。かえって、愛、赦し、同情、寛容、辛抱強さを持ちます。このようなからだの生活は、私たちの奉仕に真の衝撃力を持たせます。		
III. 私たちの奉仕は、神の家を建造するためです:	A. 神の願いは、救われ成就された信者たちが、共に組み合わせられ建造されて、神の住まいとなることです:	1. 人々を導いて救うことや、信者たちを導いて命において成長させることは、単に手続きにすぎません。神の究極的な目標は、神の家の建造です。
		2. 建造された神の家は、神を啓示し表現し、彼が得るべき栄光を彼に得させ、彼のみこころを完成して、彼に安息を得させます。
		3. 神の願いは、福音が熱心に宣べ伝えられることです。神の願いはまた、信者たちが霊のものを追い求めて、神の家、すなわち、召会、キリストのからだを建造することです。
	B. 私たちは、神の家の建造を顧慮する必要があります:	1. 主イエスが地上におられたとき、彼の働きの中心は、神のために家を建造することでした。このゆえに、彼は、神の家を思う熱心によって食い尽くされていました。
		2. 使徒たちは、神の家の建造のために労苦しました。
	3. 大部分の信者は、自分の個人的な必要を顧慮し、自分自身を中心とし、出発点とします:	a. 物質的な領域と霊的な領域のいずれにおいても、人は利己的であり、いつも自分のために何かを得ることを欲しており、神が何を願っているかを考えていません。 b. もし私たちがこの時代において、神の願いに符合するクリスチャンになって、神の必要に応じたいなら、自己の中に捕らわれていることはできません。私たちは自己から出て来て、神の必要を顧慮しなければなりません:
	4. 私たちは、神の家を建造するという神の働き以外のどのような事にも焦点を合わせてはなりません。	(1) 神の願いは、私たちが自己から出て来て、私利私欲から救い出されて、神の家の建造を顧慮することです。 (2) 私たちは、自己に焦点を合わせるのではなく、神の家を顧慮しなければなりません。
	5. 私たちは、ビジョンをもって、啓示にしたがって、からだの中で神に仕え、神の家としての召会を建造します。	

経験:ビジネス・ライフ編

- ① 神に対する私たちの奉仕は、啓示にしたがって奉仕することと、天然である奉仕に分けることができます。啓示にしたがった奉仕は、神に出会うこと、神によって照らされること、神から啓示を受けること、霊の中で神によって負担を与えられることを伴う奉仕です。このような奉仕は、私たちによって始められるのではなく、神によって始められます。それは私たち自身から出て来るのではなく、神から出て来ます。私たちは源としての神から来る奉仕を持つために、神に出会い、神と接触しなければなりません。天然の奉仕は異なっています。天然の奉仕は、私たち自身の考えや、見方や、伝統や、決まりにしたがったものです。それはまた、他の人たちをまねること、模倣することからやって来ます。それはしばしば、ある状況の必要に応じるためにだけ開始されます。そのような奉仕は、自分自身から、あるいは他の人たちから出るのであって、神から出るものではありません。…価値のある唯一の奉仕は啓示にしたがって行なわれる奉仕です。

優れたビジネス・パーソンは自分の過去の経験や考えに固執せず、オープンマインドで様々な変化に対応する柔軟性を持っています。現代の時代は変化の時代であり、ビジネスの環境は様々な面で急激に変化しています。したがって、あなたは過去の経験だけに頼っていると、現在の必要に応じることは不可能です。

あなたのビジネス・ライフにおける様々な経験は、召会建造のためです。また召会建造のための様々な奉仕は、あなたを成就することができるので、あなたをビジネス・ライフにおいても証しのあるエクセレント・パフォーマーにすることができます。召会の奉仕において、優れた奉仕は、自分の観念や経験を下ろし、主に開き、主から聞き、主を享受し、主と共に行動する奉仕です。このような実行はあなたを柔軟性のある人にし、ビジネスにおいて優れた人にならせることができます。

- ② 私たちは神に仕える者たちとして、多くの時、最初の二つの事柄だけを見ます。私たちは福音を宣べ伝えることと霊のものを追い求めることの重要性を認識していますが、神の家の建造の重要性を認識していません。これは、材料を集めて準備しても、家を建造しないことにたとえることができます。私たちは多くの時、福音を宣べ伝える人や霊のものを追い求める人を評価し、これは非常に尊いことであると思いますが、究極的な目標を見ていません。私たちは神の願いが家を得ることであることを見ていません。これは神の定められた御旨です。神の願いは、救われ成就された信者たちが、共に組み合わせられ建造されて、彼の住まいとなることです。

あなたはパウロが見たように、神の永遠のエコノミーのゴールであるキリストのからだの建造のビジョンをはっきりと見る必要があります。キリストのからだの建造が神の働きのゴールであり、福音を宣べ伝えること、聖別された生活

をすること、自分自身を主にささげることなどすべてのことは、このゴールのためでなければなりません。あなたのクリスチャン生活と召会生活のあらゆる活動は、それ自体がどれだけ優れていたとしても、キリストのからだの建造に結びついていなければ、神の目から見て無価値になってしまいます。また、あなたのあらゆる活動は、キリストのからだの建造というビジョンによって方向づけられ、調整され、強められ、引き上げられる必要があります。

このような学びはあなたのビジネス・ライフにも大いに役立ちます。仕事には様々な種類の業務がありますが、目標は一つです。業務を遂行する時に、目標を見据えずにすると、方向性が定まりません。また、それぞれの業務が別々の方向性を持っているので、まとまることができず、相互に支え合う相乗効果も期待できません。優秀なビジネス・パーソンは明確なゴールを見据え、様々な業務を行う他の人を巻き込み、彼らをまとめて、効率よくゴールに到達することができる人です。召会生活において建造のゴールを持って奉仕をできる人はビジネスにおいても必ず卓越することができます。

- ③ 大部分の信者は自分の個人的な必要を顧慮し、自分自身を中心とし、出発点として考えます。彼らは神の慰め、訪れ、解放、平安、繁栄についてのメッセージを喜んで受け入れます。彼らはまた、どのように勝利し、霊的になり、聖別され、神に喜ばれ、命の中で成長するかについてのメッセージに応答します。しかしながら、神が家を必要としておられることや、人が神の安息の場所として建造されることについてのメッセージに応答し、関心を持っている人は多くありません。これは、人がいつも自分の個人的な必要を顧慮しているからです。物質的な領域と霊的な領域の両方について人は利己的であり、いつも自分のために何かを得ることを欲しており、神が何を願っているかを考えていません。…神の願いは、私たちが自己から出て来て、私利私欲から救い出されて、神の家の建造を顧慮することです。霊的に経験の豊かな人は、私たちが神の建造のために進んで他の人たちを顧慮するなら、神は私たちを顧みてくださることを知っています。

あなたは神の救いがあなたの権益のためでないことを理解する必要があります。神はあなたがかわいそうなので、キリストをあなたの代わりに十字架につけ、あなたを永遠の滅びから救ったものではありません。神の救いは明確なゴールがあり、そのゴールは永遠の滅びから救われることよりも、はるかに高く、素晴らしいものです。あなたの個人的な権益、幸福、繁栄などにとどまってははいけません。神は彼のエコノミーのゴールであるキリストのからだを建造し、神が大きく表現されることを願っています。あなたはこの素晴らしい神の建造に分があります。会社において会社の目標を知らない社員は三流社員であり、社長にとってあまり価値のない社員です。同様に、自分のことだけを追い求める個人主義的なクリスチャンは神の目に何の役にも立ちません。

詩歌、658番

1 われらのほう仕は , ただ召会のため;
そは主のみこころ , 使徒たちの実行。
(復) われらのほう仕は , ただ召会のため;
これは主の御むね , われらおこなう。
2 召会は主のうつわ , とわのご計かく;
すべてのほう仕は , けんぞうのため。
3 たまものあるひと , からだのなかで,
しょう会をけん造し , ほう満もたらず。
4 たまもの, 機のうちも , れいのちからも,
すべてのつとめは , しょうかいのため。
5 ふく音もおしえも , やしない, かん理も,
すべてのほう仕は , みからだのため。
6 しょう会がつとめの ためではなしに,
つとめは, しょうかい, しょうかいのため。
7 これがしょうかいの いちをたもって,
わが動機をさぐり , もくてきただす。
8 自ぶんのわざより , 主よ, すくいませ;
われらのろう苦は , しょうかいのため。

一

我们事奉须为召会, 神的美意如此定;
这是工作惟一途径, 使徒都曾如此行。
(復) 我们事奉须为召会, 不该为着别事情;
这是神的完全旨意, 我们必须如此行。

二

召会要作神的器皿, 是神永远的计划;
神要我们所有事奉, 都为建造祂的家。

三

元首所赐恩赐的人, 全都为着祂身体;
他们都该建造召会, 使主丰满得建起。

四

所有恩赐、一切功用、圣灵所显的能力,
以及所有不同职事, 都该只为主身体。

五

传扬福音、拯救罪人、教导、牧养并治理,
以及各样别的工作, 也该只为主身体。

六

职事乃是为着召会, 召会不是为职事;
所有灯台都是召会, 任何职事都不是。

七

这能保守召会合一, 拯救我们脱宗派;
这将试验我的动机, 予我目的以更改。

八

求主救我脱离工作, 脱离宗派的工作;
使我只为召会劳苦, 只为召会而活着。

914. Service - For the Church (Jap 658)

1

For the Church should be our service,' 'Tis the perfect will of God;
'Tis the only way of working Which the Lord's apostles trod.

(C)

For the Church should be our service, Not our aims to satisfy;
This the perfect will of God is, And with it we must comply.

2

For 'tis God's eternal purpose That the Church His vessel be;
He intends that all our service Build His Church continually.

3

All the gifted persons given To the Body by the Head
Are to aid the Church's building, That to fulness she be led.

4

All the gifts and all the functions, All the spirit's power shown,
All the ministries are given For the Church and that alone.

5

All the preaching of the Gospel, All the teaching ministry,
Every other kind of service For the Church alone should be.

6

Ministry is for the Churches, Not the Church for ministry;
All the lampstands are the Churches, Not a form of ministry.

7

This will keep the Church's oneness, Saving us from every sect;
This will ever test our motives, And our aim will thus correct.

8

Lord, deliver us from our work, From the work of any sect;
For Thy Church alone we'd labor And its building up effect.